



奥村土牛 「スペイン皿」1961(昭和36)年 泉島閣美術館蔵

近代 日本画の あゆみ

日本美術院
再興100年

― 蘭島閣美術館コレクションを中心に ―

2014年

9月12日(金)～11月9日(日)

休館日/月曜日(9月15日、10月13日、11月3日は開館)
開館時間/10時～17時(入館16時30分まで)

会場/公益財団法人泉美術館 第1・第2展示室
(広島市西区商工センター2-3-1 エクセル本店5階)

入館料/一般500円(400円)、
学生250円(200円)、中学生以下無料

※()内は10名以上の団体
主催/公益財団法人泉美術館、中国新聞社

後援/広島県教育委員会、広島市、広島市教育委員会、NHK広島放送局、
中国放送、広島テレビ、広島ホームテレビ、テレビ新広島、
広島エフエム放送、FMちゅーびー76.6MHz

協力/公益財団法人 蘭島文化振興財団

公益財団法人

泉美術館

〒733-0833
広島市西区商工センター2-3-1 エクセル本店5階
TEL 082-276-2600 FAX 082-276-2612
HP <http://www.izumi-museum.jp/>

近代 日本画の あゆみ

日本美術院
再興100年

— 蘭島閣美術館コレクションを中心に —



日本美術院は、公募展「院展」や「春の院展」で知られる、今日の日本画壇を代表する美術団体のひとつです。その設立は1898(明治31)年、近代日本美術の先導者・岡倉天心を中心に、日本画の研究機関として開院しました。無線描法への厳しい世評や研究所の移転などにより、事実上の休止状態となった不遇の時期を経て、1914(大正3)年、天心の遺志を引き継いだ横山大観や下山観山を中心に「再興」されました。

以来、小林古徑、安田靉彦、前田青邨、奥村土牛、小倉遊亀など、近代画を代表する日本画家を輩出し、本年「再興」100年を迎えるその長い歴史は、現代に至るまでの日本画の足跡に重なります。

本展では、蘭島閣美術館ご所蔵の名品を中心に、大観をはじめとして再興院展を代表する日本画家たちの作品を展覧し、近代日本画のあゆみをご紹介します。



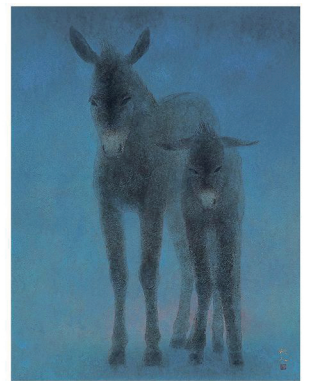
2



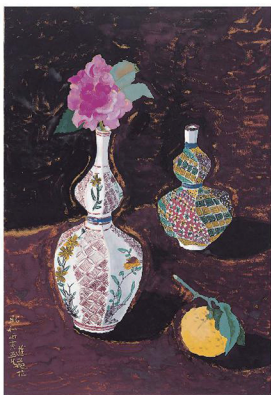
3



4



5



6



7

- 1.横山大観「神国日本」1926-29(昭和元-4)年頃 ◎ ◎は蘭島閣美術館蔵
- 2.小林古徑「芙蓉」 広島信用金庫蔵
- 3.安田靉彦「女楽偶人」1959(昭和34)年頃 ◎
- 4.堅山南風「ガクアジサイ」(部分) ◎Hisako Katayama 2014/JAA1400107 ◎
- 5.福井爽人「驢馬」1985(昭和60)年 公益財団法人泉美術館蔵
- 6.小倉遊亀「偶作」1986(昭和61)年 公益財団法人ウッドワン美術館蔵
- 7.前田青邨「群泳」1963(昭和38)年頃 ◎Y.MAEDA&JASPAR,Tokyo,2014 E1121 ◎

学芸員によるギャラリートーク
(予約不要・要入館券)

会期中 毎週土曜日 14:00~(30分程度)



- JR 山陽本線「新井口駅」から徒歩約 10 分
- 広電宮島線「草津南駅」から徒歩約 7 分
- 駐車場無料 (エクセル本店の駐車場をご利用ください。)

公益財団法人

泉美術館

〒733-0833 広島市西区商工センター2-3-1 エクセル本店5階
TEL 082-276-2600 FAX 082-276-2612
HP <http://www.izumi-museum.jp/>